

## 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

### 日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）の実施について

弘前大学北日本新エネルギー研究所では、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が実施する日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）として、平成28年11月6日～平成28年11月13日の1週間、当研究所の部局間協定校である中国・太原理工大学から大学院生4名、タイ・タマサート大学から大学院生1名、大学生1名、国際協同研究を実施しているインドネシア・バンドン工科大学から大学生2名の計8名の優れた学生を当研究所に招き、最先端の再生可能エネルギー研究について特別講義および研究者、学生らと研究交流を行うとともに青森県の特有の文化の体験などを行いました。

同事業は、産学官の緊密な連携により、優秀なアジア地域の青少年が日本を短期に訪問し、未来を担うアジア地域と日本の青少年が科学技術の分野で様々な交流を深めることで、日本の最先端の科学技術への関心を高め、さらに日本の大学・研究機関や企業が必要とする海外からの優秀な人材の育成に貢献することを目的とするもので、当研究所の官国清教授が申請したところ、採択され、このたび実施したものです。

今回の滞在中、派遣学生らは当研究所ラボツアー、太陽光発電設備等の見学、バイオマスエネルギー、地熱、海洋・風力エネルギーに関する特別講義、バイオマスエネルギー転換実験、当研究所に所属する各国の学生を交えての討論会と交流会を通して本学教員・学生らと交流を深めました。11月10日（木）には、佐藤学長、吉澤企画担当理事（国際連携本部長）、郡研究担当理事らを表敬訪問し、本学文京町キャンパスのキャンパスツアーや理工学部自然エネルギー学科教員及び学生との交流を行いました。また、11月11日（金）には、最終講義に引き続き、修了式を行い、村岡所長から修了証が授与され、引き続き、本学農学生命科学部附属農場で開発された果肉の赤いりんご「紅の夢」のほか日本一の生産を誇る青森りんごを堪能しました。

最終日には、収穫期を迎えた青森市内のりんご園でのりんごもぎ体験、青森市文化観光交流施設「ねぶたの家ワ・ラッセ」での青森ねぶた体験、縄文時代前期から中期の遺跡で日本最大級の規模を誇る「三内丸山遺跡」を見学し、北のまほろば青森の歴史、文化を肌で感じ、帰国の途につきました。



【1日目 北日本新エネルギー研究所到着】



【2日目 北日本新エネルギー研究所ラボツアー】



【2日目 太陽光発電設備見学】



【3日目 バイオマス特別講義 官教授】



【3日目 官研究室の皆さんと集合写真】



【4日目 地熱特別講義 村岡教授】



【5日目 学長表敬訪問】



【5日目 キャンパスツアー 資料館見学】



【5日目 理工学部 千坂研究室】



【6日目 海洋・風力エネルギー特別講義 本田教授】



【6日目 修了式後の集合写真】



【6日目 「紅の夢」の試食】



【7日目 ねぶたの家 ワ・ラッセ見学】



【7日目 三内丸山遺跡見学】